

高齢者のアセスメント（問題点整理）

東海社会福祉科学研究所

大 北 秀 雄

高齢者の生活を考えてみると、今までにない環境の変化があり、その対応が困難になっているのが現状です。

その困難な状況に対して、その一環を担っているのが介護保険制度です。その制度の重要なキーパーソンとなっているのがケアマネジャーの役割です。

ケアマネジャーは、居宅・施設における利用者に対して適格なアドバイスをおこなうと共にその人が生活していく上での的確なサービスが受けられるよう持っていくことが求められています。

適切で的確なサービスとは何かを考えると、利用者サイドと介護・支援サイドにおいて少し考え方及び思いが異なると思います。

利用者の生きてきた経過及び現在の状況が明確になれば、その異なる部分の解消にも繋がっていくものと思われます。

アセスメントの考え方は、多くの方が説明されておりますが、その内容の理解度によって、現実の実施方法が異なってきているのが現状です。

高齢者のアセスメントを考えて見ると、介護保険制度では対応できない問題点が多くあることに気づくことでしょう。

問題点をどう整理していくかが、大切なことになります。その整理によって高齢者への今後の取り組みが大きく変わっていくこととなります。

「どこかが対応」するのが適切なのか、「どんな内容」が的確なのか、「時期的には」どうなのかななど、いろんなことが考えられるでしょう。

関係者として、①本人、家族、親戚、友達、②地域、民生委員、自治会長、③ケアマネジャー、介護保険事業者、④医師などの医療関係者⑤行政機関など多くのものがあります。

ケアマネジャーとして、問題点をどう整理するかが大きな課題となっていますので、冷静に客観的に判断することが、高齢者の尊厳を保つことにもなります。